

オトミコ!

僕は男の巫女娘

大熊狸喜
挿絵/大空樹



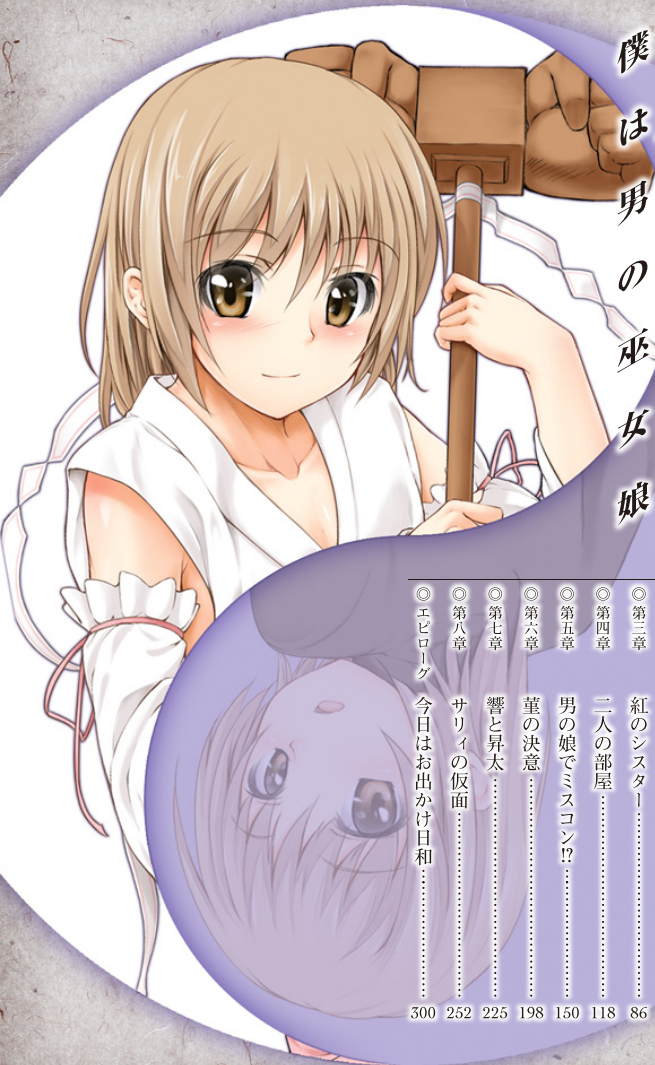
立ち読み版

オトニコノ!

僕は男の巫女娘

目次

◎ プロローグ	新入生は男の娘!?	6
◎ 第一章	契約の夜	21
◎ 第二章	初めての模擬戦	55
◎ 第三章	紅のシスター	86
◎ 第四章	二人の部屋	118
◎ 第五章	男の娘でミスコン!?	150
◎ 第六章	葦の決意	198
◎ 第七章	響と昇太	225
◎ 第八章	サリイの仮面	252
◎ エピローグ	今日はお出かけ日和	300



「あ、堇ちゃん」

たまたま下駄箱にいたのだろう。でも実は、眺めていた手紙がラブレターじゃなくて堇が安心した事など、当然、響は気づいていない。

ブカブカ学ランの少年は、丁寧にお詫びをくれた少女から、差出人の事を聞かされる。

「その方はたぶん、西洋学科の二年生……サリィ先輩の事だと思えます」

女子たちの間でも結構な有名人らしく、波打つような金髪に赤いシスター衣装が派手な女性らしい。

戦闘型退魔師としての能力も高く、授業の模擬戦でも、ずっと無敗記録を更新中。いつも複数のイケメンを従えていて、しかもちよつとコワイ噂もあるという。

「その……欲しいと思つた物は、何でも手に入れなければ気が済まないとか……その為には授業外での模擬戦も挑んでくるとか……」

あくまで噂の域を出ないらしいけど、イケメンを従えた実力派の退魔シスターである事は、確かな様子。

「お節介だとは思いますが……一応、先生方にご相談されては……」

クラスメイトの話に、響も考える。堇は、悪い噂話を楽しむような少女ではないし、真剣に響の事を心配してくれている事は、疑いもない。

「ううん……でも……」

色々な噂があるとはいえ、呼び出されただけで先生に相談するのも、最初から相手を信用してはいないみたいだと、真面目な響は考える。

「……ありがと。とりあえず、会ってみるね」

「え……でも……」

「とにかく、お話だけでも聞かないと」

と、少年は心配をするクラスメイトにニッコリ微笑んで、西洋科の校舎へと向かった。

響を見送った董だけど、何だか胸騒ぎがする。

「わ、わたくしの思い過ぎなら、いいのですが……」

そう口にしなから、少女は急いで、共同修煉場へと足を向けた。

呼び出された屋上に向かう途中、曲玉からエリザが話しかけてくる。その声は、イタズラっぽく拗ねたお姉さん、みたいだ。

『響さまったら、また女から声を掛けられて……女泣かせの浮気なご主人さまですわん』

「そ、そんなつ、違うよつ。だって、呼び出されたら行かないと、失礼だし、相手は上級生だし、その……」

真っ赤になってアワアワする少年に「うふふ」と笑みを漏らしながら、墮天使は更に面

白がって、過激な提案を口にする。

『そうですわ。響さまが、どうしてもその女を欲しいと仰るのでしたら……エリザが犯して身も心もメロメロにして、響さま専用の性奴隷として献上致しますわよん♥』

「せつ——だだだダメだよ、そんな事しちゃ……!」

慌てて否定する清純少女みたいなご主人様に、使い魔は何だか満足げな微笑みを、曲玉の中から見せていた。

響が到着すると、屋上には数人の人影があった。一人は女性で、後は学生服を着た男子生徒たち。

下級生の姿を確認すると、集団の中央に立つ唯一の女性が、話しかけてきた。

「あなたが鏡響さんね：私は西洋学科の二年、アスコット・橘・サリイですわ」

尊大な挨拶をくれた上級生は、やはり手紙の主。周りでは男子たちがヒザを突いて、サリイに頭を垂れていた。

呼び出し人の少女は、屋上の風に美しい金髪を靡かせている。卵形の、柔らかく引き締まった美顔に、まつげも長くて気の強そうな、青い瞳のツリ目がとても綺麗。

ハーフなのか鼻筋も細くて高く、薄い唇と相まって、大人っぽい美しさを見せていた。纏っているのは、セーラー服ではなく、赤いシスター衣装。全身を隠すような普通の衣

装ではなく、ミニスカートのように丈が短い。

胸部分は大きく露出されていて、豊かな谷間が剥き出し。豊乳の間では、黄金の十字架がキラリと輝く。

ウエストは衣装の上からでも解るほど締まっていて、続く腰ラインは緩やかでタツプりと広い。お尻もツンと張っていて、ミニのスカートをギリギリまで持ち上げていた。

腿から細い足首へと連なる美脚には、戦闘用らしい長いブーツを装着している。紐で結ばれた革製のオーバーニーで、スカートとの間では艶々の腿が、僅かに覗けている。

左腿に巻かれたベルトには、掌サイズの銀の十字架が、いくつも下げられている。

響の頭がアゴの辺りであろう身長と、起伏の恵まれた曲線のボディ、そして背筋の伸びた美しい立ち姿は、ヒールの高いブーツがこれ以上ないほど、よく似合っていた。

退魔具らしい、細くて長い杖を手にして、その先端は美しい装飾が施されている。

風に流れる金髪が豪華な、赤服のシスター少女、サリイ。

そんな、女王様みたいな上級生の周りでかすず傳く男子学生たちは、みんなファッション雑誌のモデルかアイドルかと見まごうほどの、イケメン揃い。

(サ、サリイ先輩って……すごく偉い方なのかな……)

上級生らしい男子まで跪いているので、そんな気もしてちよつと萎縮してしまう。小柄な下級生を見下ろしながら、赤いシスター少女は用件を告げた。

「鏡響さん……私、あなたの使い魔、アカツキが気に入りましたの」

「そ、それは……ありがとうございます……」

(そっか……アカツキって人気があるもんね)

自分の使い魔が気に入られて、ちよつと嬉しい。褒めて貰ったのかと思っていたら、しかし、思いがけない言葉を掛けられる。

「ですから、あなたは今すぐ使い魔との契約を解除。私にアカツキを差し出しなさい」

「えっ——!？」

予想していなかった要求に、耳を疑う。更に響の周囲には、サリイが用意したらしいサークルが数個出現、少年を取り囲む。

赤く輝く魔法陣は、直径が二メートルほどもある。初心者の響でも知っている、魔物捕獲用のサークルだ。

「あ、あの……」

慌てる少年の言葉も聞かず、傲慢なシスターは要求を突きつける。

「早く召喚なさいな、私は待たされる事が大嫌いですわ!」

イラつきを隠さない美顔も、高貴で華やかなサリイ。

理不尽な要求に戸惑いながらも、少年はハッキリと意志を示した。

「あ、あの……それはできません……すみません、失礼致します……!」

上級生の意志強い視線が怖くて、小柄な下級生は頭を下げて退散を試みる。しかし小走りで屋上出入り口に向かった響は、イケメンの上級生たちにアツサリと捕らえられてしまった。

モデルみたいな年上美少年たちの顔が間近に迫ると、思わず心臓がドキッと跳ねる。

「ひゃっ——あ、あの……！」

大の字に拘束されて仰向けのまま、サリイの前に差し出される。ブカブカの学生服にアゴまで隠れる姿は、男装した小柄な女生徒みたいに愛らしい。

「あなたの同意など得るつもりもありませんし、必要ありません」

そう言つて、開脚させられた少年の間、屋上の床面を、サリイは杖で叩く。数瞬の時間を置くと、そこには五十センチほどの、虹色に輝く新たなマジックサークルが出現した。

「これは特別なサークルですわ……くすくす」

言葉だけで、シスター女王の命令を受けたイケメンたち。綺麗に整えられた男子たちの手で、学ランがはだけてられてゆく。

「ひゃあつ——な、何を……！」

抵抗するものの、細い体軀では、背の高いイケメンたちに敵う筈もない。響は上着をはだけさせられ、艶めく白い肌を露出させられると、更にズボンと下着も奪われた。

「やつ、やめてえつ——ひゃあうつ……！」

「あら、綺麗な肌ですわ……女の子みたい、くすくす」

大の字拘束でペニスを露出させられると、美しい男子上級生たちの手で、優しく勃起を包まれて、性的な愛撫を施される。

——しゅりしゅりしゅりりり……スリスリスリスリ……。

「ひゃあぁっ——ま、待ってっ……やめ、やめてっ……んうう……！」

人前で裸にされるのも恥ずかしいのに、他人の手でペニスを刺激されるなんて、火が出そうなほど恥ずかしい。

しかもイケメンたちの掌は、お手入れが行き届いていて、スベスベで柔らかか。更に性戯にも慣れていられるらしく、愛撫される響のペニスは、あつという間に硬化してしまった。

(こ、こんなの……恥ずかしいよう……！)

望まない、一方的で恥ずかしい性行為なのに、男性器への愛撫が優しすぎて、身体からは力が抜けてしまう。

「や、やだよう……はううっ……こしが、勝手にい……！」

柔らかい掌で包まれて、敏感な箇所がすり上げられると、独りでに腰が脱力する。本能的な性感で手足が震え、鼓動が高鳴り、息も乱されてゆく。

恥態を晒させられる少年を、僅かに頬を染めながら見下ろしつつ、紅のシスターガールは驚愕の畏を明かした。



「……………昇太…キ、キスした……………」

(やべえっ……………怒ってる…!?)

大きなタレ目が濡れていて、ちよつと怒っているようにも見える。

色々な意味で少年は焦った。中性的な幼なじみは恥ずかしそうに肩をすくめて、視線を逸らし、耳まで真っ赤にしながら消え入るような声。

そして。

「も、もう……………」

そんな一言で、響は昇太の行為を受け入れていた。恥ずかしがってはいるけど、怒っている様子は無い。

(よ、よかった…)

なんてホットとしている自分も、どうかしている気がする。ちよつとバツが悪い空気を、恥ずかしいままに強気で無視していると、幼なじみがテーブルの上に手を伸ばした。

女子たちが買ってきてくれた、綺麗で美味しいシュークリームを一つ手にする。そして何だか嬉しさ満点みたいな笑顔で、お見舞いの品を差し出してきた。

「昇太、あ〜ん♥」

「な、何だよ……………もう響の、十分食べたぞっ!」

さっきの今で「あ〜ん食い」なんか、恥ずかしくてできない。シュークリームを口元に

差し出す少年は、泣いていたのがウソのように、楽しそうだ。

「いいもん昇太、こっち食べても」

頬を染めたニコニコ笑顔は、中から喜びのオーラが燦々と発散されて、眩しい位に愛らしい。

(こいつ……ホントに女みたいだ……)

さっきだって、結構ドキドキさせられたのに。キスしたせいもあるのか、唇の柔らかさを意識してしまう。

「はい昇太、美味しいよ。あゝん♥」

「美味しいよって、俺は犬かつ！」

そんな反論にもニコニコ。なんだか「嬉しくて、何かしてあげたくてしょうがない」空気が満々。

「つくづく食べるかつ！」

ベッドと椅子で、そんな恥ずかしい対峙をしていると、響の曲玉から桃色墮天使の声が聞こえてきた。

『響さまン。さっき接吻をなさいました時……昇太くんの、か・ら・だ・に、異変を感じましたわあン』

「ええ……っ!!」

言われて一番驚いたのは、昇太本人。

「べべつ、別に異変なんてつ——ななないぞっ！」

ドキドキしたのは事実だけど、性反応はしていない。慌てる少年を面白がるように、使魔は告げる。

『昇太くんの体内に、僅かな妖気を感じますわ。きっと昨日、屋上での戦闘でダメージを受けた時に、体内に妖気のカケラが入り込んだのですわん』

「ほ、ほんとエリザ…?! ぼ、僕、先生を呼んでくるよっ！」

使魔の話の聞いた少年は、我が事のように焦りを見せる。しかしエリザは、とんでもない解決策を告げてきた。

『いいえ響さまん、こういう時は、なるべく素早い対処が肝心なのですわ。最良の対処方法はまだ一つ……響さまが昇太くんに、お口ご奉仕をされる事ですわん♥』

「お口でご奉仕……?」

(そ、ソレってまさか…!?)

意味が解らない様子の幼なじみに対し、何となく理解する昇太。主の疑問符に、セクシ―堕天使は妖艶な口調で答えた。

『はい。響さまが昇太くんのペニスをお口で刺激されて、射精に導かれるのですわん』

「……えええ……っ?!」

つまり、響が昇太にフェラ行為をしろ、と言うのだ。墮天使の提案に、二人揃って真っ赤になって仰天。

「くく、口って……ななな、なんで？」

意味が解った幼なじみは、羞恥して動転。クスと微笑むエリザの話によると、昇太に取り憑いた妖気は僅かだけど悪性で、しかも股関節に巣くっているらしい。

このまま放っておけば、そんなに日を置かずと成長して、昇太の身体を乗っ取ってしまう、かもしれないと言うのだ。

「そ、そんな……昇太が、妖怪に……!?!」
動揺して、再び泣きそうになる幼なじみ。

「つまり、今最も確実なのは、響さまが昇太くんに唇奉仕で射精をさせて、先端が開くと同時にエリザが聖力を送り込んで、妖気を消滅させる。という方法ですわん」

手よりも唇の方が、確実に接触できるからだ」と、墮天使は楽しそうに言う。曲玉の中からは、アカツキも頷きのオーラを感じさせていた。

言われた少年剣士は、しかし当然、受け入れられるワケがない。

「ななっ何言ってるんだよっ、そんなことできるわけないだろっ。第一、響だって……!」
と、真っ赤になって反論する。しかし当事者とも言える幼なじみは、僅かに逡巡を見せたものの、真面目な愛顔で決意を固めていた。

「……わ、解ったよ……昇太を助ける為だったら、僕、ガンバルよ……っ！」

「解ったって……お前……！」

向けられた眼差しは「昇太を救いたい百パーセント」な、真剣な瞳。まるで、恋人の為に恥ずかしい事を受け入れる決意をした女の子みたいに、頬も決心で染まっている。

そして奉仕の方法は、曲玉の中からエリザが直接、響に教えるという。

響は自分を納得させるように、ウンつと頷くと、ベッド上の少年に近づいてきた。

「ちよつちよつと待て響っ——」

「昨日、昇太が僕を助けに来てくれたもんっ……今度は僕が助ける番だよ……っ！」
恥ずかしさを振り払うように、真剣に告げる幼なじみ。

ベッドで四つん這いになって、真つ正面で決意する響は、まるで女の子が迫ってくるように、抗いがたい魅力を放っていた。

「き、響……」

（か、可愛い……）

何というか、一生懸命な仔猫、みたいだ。

（響が……俺のを口で……）

唇の柔らかさが頭を離れないうちに、そんな想像をしてしまう。途端に胸が高鳴ってきて、ペニスはグンつと、血を集め始めてしまった。

（げっ——俺、なにコーフンしてんだっ……俺は男だし……き、響だって、男なのに……！）
「し、昇太……動かないで……」

四つん這いで迫る響も、頬を染めて、僅かに汗を浮かせている。細い指がパジャマにか
けられると、昇太は再び、理性がクラリと揺れるのを感じた。

（き、響……）

ヒジを突いた四つん這いの幼なじみは、お尻を上げた格好だ。ブカブカの帽子を脱いで
いるから、細い背中や小さなお尻が、愛顔の向こうでユラユラしている。

覗ける腿も、ツルツルの艶々。白い肌も手伝って、もはやショートカットの少女にしか
見えない。小さな吐息も、熱と湿り気を帯びている気がした。

墮天使の指示に従う響に、上着の前がはだけられ、ズボンとトランクスが下げられる。
それだけで、昇太のペニスは完全に硬化。解放と同時にピンつと天を指していた。

「んしょ……これでいいの、エリザ……ひゃっ——しょ、昇太……すごい……！」
「うぐぐ……」

お互いのモノは、初めて見たワケではないけど、戦闘態勢は初めてだ。

響のモノよりも大きなペニスは、標準の男子よりもサイズがある方だろう。まだ濃い桃
色が清潔で、しかも包皮は剥けていて、肉カリ部分は大きく発達。

数本の血管が脈打っていて、しかし全体の形は太くて綺麗だ。

一方で幼なじみは、サアッと耳まで真っ赤になって、驚いて羞恥。初めてペニスを見た少女の初々しい反応、そのままだ。

「——っそんな顔すんなっ！」

タレ目が僅かに潤んでいる様ななんか、まさしく性興奮の熱の如く。すぐ近くで見つめられると、ペニスは視線を感じてビクッと蠢いた。

「わひゃっ——っううん、僕が、助けてあげなくちゃ……待ってね、昇太……！」

そう言うのと、幼なじみは震える指先で肉角にタッチ。一瞬手を引いたものの、すぐに触れて、掌で包み込んだできた。

「響……んぐ……」

（お、俺は、響と……）

理性が動揺しているのに、肉体と心の奥底では、何一つイヤだと感じられない。柔らかくてプニプニの掌で包まれると、勃起は更に熱と硬度を増した。

「……すぐく、熱いね……」

掌で包む響も、タレ目を潤ませて肉棒をジッと魅入る。数秒の逡巡を置いて、そして決意を固めると、目を閉じて口づけをくれた。

「こくん……い、いくよ……ちゅ……」

「ぐっ——っ！」

唇が亀頭部分に触れた途端、先端から芯を通って脊髄までが、ビクッと痺れる。肉棒も力んでクンッと跳ねると、幼なじみは一瞬の間をおいて、素直に嬉しそうに、笑みを見せた。

「昇太……今するね……」

少し余裕ができたのか、そう言いながら、今度は艶めく小さな唇を開いて、先端を包み込む。

(き、響が俺のを、俺のを……っ！)

目の前の光景が、まるで別の身体からの映像みたいに、鮮明に感じられる。そして昇太は無抵抗のまま、響の唇愛撫を受けた。

「んん……けほけほっ——んくん……」

ちよつと咳き込んだ響だけど、再びの決意で唇に含む。

——むちゅり……ちゅぶ……

濡れたリップに含まれると、中は熱くて、ヌリユリと濡れている。少しずつ飲み込まれてゆくと、口内の濡れ粘膜がペニスの肌に吸いついてきた。

「中、ヌルヌル……」

初めて口奉仕を体験する昇太も、ペニスで受ける性感で、腰が自ら自由を放棄。幼なじみの唇奉仕に、その身を委ねてしまっていた。

「んくく……んぶんん……」

根本まで飲み込まれると、そのまま浅く息を吐く、中性的な少年。

「響……」

小さな頭が自分の腰に埋められている様は、不思議に征服欲が満たされて、同時に強い愛情も湧き起こってしまう。

思わず優しく髪を撫でると、幼なじみは濡れたタレ目で見上げてきて、更に頬を染めながら、愛撫を始めた。

最初はユックリと、少しずつ少しずつ、早く。

——ぬりぬりぬりゆ、つぶちゅぶぶ……つぶりぬりぬ、ちゅぶちゅぶ、ちゅぶつぶ。

唇を締められて、肉棒に密着されると。奉仕者の唾液が溢れると、ペニスに吸いつくように吸い込まれるように、ヌルヌルの潤滑感を与えられていた。

亀頭の裏側まで唇を引かれると、物足りないような焦燥感のような、不思議な飢餓感を覚えさせられる。根本まで深く含まれると、射精に向けた圧力に似た感覚が、ゆっくりと確実に、腰の奥で溜められてゆく。

「ん、ん、ん……んぶ……」

鼻で息をする幼なじみの熱と湿り気が、腰をくすぐる。

（響……俺のために、一生懸命……！）



「げっ——」

（お、俺っ——何言ってるんだ…っ！）

全身が思わず硬直。そして涙する響が、ゆっくりと頭を上げた。

「し、昇太……」

見上げた幼なじみの顔が、見る見るうちに上気してゆく。大きな瞳をパチクリさせると、まるで夢を見ているような、うっとりキラキラの輝き。

（うっ——こいつ……なんで、こんなに……）

見つめあってしまうと、愛らしすぎて視線が逸らせない。鼓動がトクトクと早まって、全身の熱が高まってゆく。

「昇太、今……」

しかもそれは、幼なじみも同じらしい。恥ずかしそうに顔を俯かせながら、潤む視線は見上げたまま。しかもモジモジしながら、距離を開けるような様子もない。

「……………!!」

少年に見つめられる視線を、何か別の意思表示と感じ取ったらしい響。胸の前で小さな両手を合わせて、小さく震えるまぶたを、静かに閉じる。

（——っ！）

まるで、ブルマ姿の小柄な少女が、精いっぱい勇気でキスを受け入れようとしている

ような、愛らしい姿。

こんな幼なじみは、初めて見る。何か心の中で、嚴重な鍵が、ガチャンと外れた。

「……響……」

(お、俺は………)

誰もいない林の中は、風だけが優しく通り過ぎる。小さく震えながら少年の意志を待つ幼なじみに、昇太は思わず、唇を重ねていた。

——ちゅ……。

「んん……んん……」

キスの瞬間、響はピクンと強ばったものの、後はジッと、昇太に身を任せている。震えているのは、恥ずかしさなのか。

(俺、またキスを……)

唇が離れると、鉢巻きの女の娘は薄く目を開ける。そして小さく息を吐いて、恥ずかしそうに笑顔を見せた。

「もう……昇太ってば、いつも突然、なんだから……」

文句を言いながら、嬉しさが隠せない様子。そんな仕草も、愛おしくて堪らない。

(き、響……)

キスをしたただけなのに、愛らしい羞恥顔を見せられると、股間のモノが熱く大きく、硬

化してゆく。少年の瞳は、若い情熱で熱く潤んでいた。

細い肩を抱いて、そのまま大木に寄りかからせる。

一瞬キョトン顔を見せた幼なじみだけど、熱っぽく見つめる眼差しに強い欲求と意志を理解すると、一呼吸置いて、小さく頷いた。

「し、昇太……僕で、いいの？」

（そ、そんなこと聞くなよ……!）

逡巡の言葉に、答えるのが恥ずかしい昇太は、無言で再び、額にキス。ちよつとだけ首をすくめた響は、瞳をウツトリさせながら、後は少年のするままになった。

そして、脚の力が抜けたのか、幼なじみは唐突に足を滑らせる。

「ひゃんっ……!」

「響！」

コケゆく少年を支えたから、響は怪我をしていない。しかし体勢は、両手をついた四つん這いになっていた。

小柄で中性的な幼なじみが、細い手足で四つん這いになって、パツパツブルマのお尻を向けている。

「——っ！」

細い背中が柔らかくクネリ、ツンと空に向いている丸い小尻。サイズがミニなブルマ生

地は艶々に伸ばされて、媚尻の曲線をより可愛らしく引き立てていた。

股間部分が少しだけ膨らんでいるのは、響が男の娘である証。それでも、まるで小柄な少女がドジで転倒したような姿は、少年の意識に火を付けるのに、十分だった。

(こいつ……お尻までこんなに、可愛いかったのか……?)

思わず掌が伸びて、細い腰を左右から掴み、引き寄せる。

「ひゃっ……昇太あ……」

背後からの腰抱擁に、幼なじみは軽く驚きの声。しかし悲鳴にも似た小さな息には、確かに艶も含まれていた。

四つん這いで、少し振り向く響の視線。大きなタレ目には戸惑いと一緒に、僅かな期待と、少年を信じる精いっぱい覚悟、みたいな色が見える。

そんな愛顔は、完全に女の子だ。

(お、俺は何を……)

ドキドキする自分に戸惑いを覚えるものの、四つん這いで頬を染めて、身を任せるブルマな幼なじみに、愛おしさだけが膨らんでゆく。

艶々のブルマを指で撫でると、敏感なお尻がピクつと震える。愛撫を受ける響も、小さな掌で草を掴んで「ひゃん……!」と羞恥の声をこぼす。

四つん這いで少しめくれた体操着から、抱くと折れてしまいそうなほど、細い背中が覗

いている。捲つてみると、白くて繊細な肌が、陽光に晒された。

「や…見ちゃ…」

背中は自分でも見えない箇所だから、十分洗えているかどうか解らなくて、見られるのを恥ずかしがる女の子もいる。と、先輩に聞いた事がある。

どうやら響も、そうらしい。スベスベの肌を見られながら、恥ずかしそうにモジモジしていた。肌が薄く上気して、僅かに汗を纏い始める。

露出した背中は、極薄く程よい皮下脂肪が乗っていた。ブラをしていないトコロなど、まるで、まだ乳房が未発達な、初等科の女子の如く。

華奢な背中は、ブカブカの体操服やピッターブルマと相まって、本当の女児みたいだ。

(このまま、響と…!)

野外という異質な環境での肌の露出が、少年の欲求を更に加速させたのだろう。

昇太は無性に、この弱々しい背中を護りたい、自分のモノにしたい、という男性的な本能に突き動かされた。

薄いブルマ生地の左右に両掌をかけて、スルリと引き下ろす。

「ひゃあっ……し、昇太……!」

ブルマを下げられて驚いた幼なじみが、本能的に短い悲鳴を上げたものの、逃げ出す様子はない。

太陽の下で剥き出しにされたお尻は、ツルツルの艶を見せていた。小さな二つのお尻肌は綺麗な丸みで突き出されていて、緊張と羞恥で震えている。

内股で少しだけ開いた両脚と、霧状の汗でキラキラしている左右のお尻媚肉。ブルマと下着は、腿の辺りで止まっていた。

そして小尻の谷間には、小指の先よりも小さな、震える縦長の後孔。響の菊肛は小さな皺を少しだけ集めていて、小さくプクンと膨らんでいた。

色は肌と殆ど同じだけど、性興奮に上気していて、濃い桃色に息づいてもいる。

ツルツルな会陰の下には、小さな睾丸袋が見える。表面はツルツルしていて、ここもまるで、初等科の男の子。

その向こうでは、標準サイズのペニスが真っ赤に硬化を見せていた。

普通だったなら、見ても特に楽しいワケでもない、男性器。だけど昇太は不思議と、嫌悪感も違和感も感じていなかった。

(響なんだ……)

その事実だけが、自分の中に、すくっと入ってくる。

(これはきつと、昨日の夢の答えだ……)

男とか女とかではなく、今はただ、響が欲しい。響だから欲しい。(ど、どうしたら……そ、そう言えば、女でもお尻でするって……)

半裸で羞恥に震える幼なじみのお尻を見ながら、少年は自分の体操ズボンを下ろす。

「や……パンツ下げちゃ……！」

恥ずかしさに軽い抵抗を見せるものの、震えるお尻を掴むと、幼なじみは身を固くする。
(き、響の……)

小さくて縦長の菊肛が視線に入ると、天を突くようにそそり立つ勃起は、更にコレまで以上に、熱と堅さを強く表してゆく。

「……しようた……」

背後でペニスの存在感を感じたのか、幼なじみは軽く怯えている様子。丸いお尻を撫でると、高い声で「あん……っ！」と艶声を聞かせた。

幼なじみの艶々な桃色後孔には、全く汚感を感じない。指先でツンと突くと、ブルマ少年は小さく息を詰まらせて、そして媚肛はキュッと窄まる。

「いくぞ、響……」

「う、うん……！」

少し強く言うのと、幼なじみはまるで初体験の少女みたいに、精いっぱい覚悟で返答。

堅いペニスの先端を、震える排泄口に充てる。それだけで幼なじみは、ヒクんと背中を反らせた。

昇太の鈴口から溢れた先走り液が、ヌルヌルの潤滑剤になって、響の後孔を潤す。そし

て少年は、細い腰を強く抱くと、引き寄せながら腰を進めた。

「ひゃっ——しょ、しょうた…は、あああ…！」

——つぶ……みり、みりり……。

一ミリ一ミリと、堅い肉を押し込めてゆく。後孔は苦しいのか、ペニスを詰められてゆく響は、苦しそうに息が溢れる。

重い肉圧に耐えながら、後交を受け入れる幼なじみ。頬は上気し、白魚のような指で握った数本の草を、プチプチと千切りながら、熱い勃起を受け入れてゆく。

そんな姿も、なんだか愛らしく感じる。幼なじみの後孔は締めつけられるほど、きゆりにゆり、とキツかった。

亀頭が埋められ、高い肉カリ部分を通り、長い本体が埋没される。そして昇太は、響の腸内に完全挿入を果たした。

「うく……キツイし、熱いな…！」

幼なじみの中は、少年のペニスよりも高い性熱だと感じられた。以前、口奉仕を受けた時よりも、もっと熱い。

更に腸粘膜はキツく締めつけ、サラサラした粘液を溢れさせている。

腸壁粘膜は、ヌリユヌリユと熱く密着してくる。昇太自身は経験がないけど、女性器の感覚に似ていると、本能的に理解していた。

「は……はああ……しようたが、ぼくの中に……」

ペニスを最奥まで入れられた事が、安堵感に繋がるのだろうか。

幼なじみは後孔を貫通されながら、背中がクタリと脱力。細い肢体を震わせながら、ドコか満たされたような吐息をこぼしていた。

裸の背中やお尻の媚姿は、まるで女の子そのものだ。女兒を背後位で犯しているみたいで、なんだか背徳感まで感じてしまう。

(は、早く……)

響を抱く肉体が、響に抱かれるペニスが、早く射精の快感を欲しいと訴えてくる。少年は、キツく密着する腸壁の肉動を感じながら、自らの腰を前後させ始めた。

——きゅぷつぷりゅ、ちゅぬりゅりゅ……つぷちゅるにゅぷ、つぷちゅりゅるぷりゅ。

ユツクリと腰を引くと、腸粘膜は切なそうに縋りつくように、ペニスを吸う。そして根本まで突き込むと、真綿で抱き締めるように優しく、強く包み込む。

本当に、女の子の腔壁以上だと、解る。

引いた勃起は柔らかい腸粘膜で、本体表面や肉傘の裏を、満遍なく愛撫される。奥まで突くと裏側の弱点がこすれ、更に完全密着の熱感触で、勃起全体が幸せに包まれた。

出しても突いてもペニスが愛撫されて、本体から腰の奥まで、ジリジリと快感が溜められてゆく。

「響の中……すごく、いい……！」

腰から両脚へ、上半身へと性感の痺れが拡がってゆくと、そんな感想が思わず漏れた。

「しょ、しょうた……んはあ……あん……ぼくも、あたま、じんじんしちゃう……！」

背後から突かれる幼なじみも、肉体を強い性感で灼かれているらしい。白い肌が紅葉に染まり、息は官能に乱れてゆく。

脱力した腰は力が入らず、一突きする毎に背筋がキュッと、弱々しく引きつる。四つん這いの下腹部で揺れる肉棒は、ピクッピクンッと震えながら、透明な液を地面にこぼす。

青い草の上に頬を着けた媚顔は、息苦しそうなのに柔らかく蕩けて、官能に吞まれている事を隠せない。

（こんなに……可愛い顔しやがって……）

背後から見える横顔だけでも、男の本能を強く刺激してくる幼なじみ。抽送に合わせ、ペニスから腰の奥に向かって、鈍くて強い力が溜められてゆく。

熱棒の本体が焦らされるような痺れを感じ始めると、頂点が近づいていると解る。手足の先から冷える感覚がして、思考も鈍くなってゆく。

（早く、欲しい……！）

原初的な発射の欲求を、強く感じる。勃起が締めつけられて下半身が力むと、昇太の肉体は早く射精がしたくなって、更に腰打ちを加速させた。

——つりゆむつきゆりゆつちゆぶりゆつ、つぶぬりゆぶつきゆむきゆるむぶきゆつ！
 「ひゃあんんつ——はつ、んあんんつ——しよ、しよふたつはげしつ——あんひゃんひゃん
 んつ——つ！」

力強い突き込みで、幼なじみの息が大きく乱れる。背後からお尻を突き上げられて、更に媚尻を突き出す恥ずかしい姿勢にされていた。

前後に揺れる裸尻は粒の汗を纏い、激しい前後動で少年の腰を受け止める。突き込みに合わせて細い背中が柔らかくしなり、更に肉突きの快感でヒクヒクと痙攣。

上体を支える両腕は脱力して、もうヒジでさえ、肢体を支えられずにいた。薄い胸の先端では、桃色の乳首がツンと硬化し、突き上げに対して小さく揺れている。

お尻を掲げて顔を地面につける幼なじみは、滑らかな指で短い草を握っている事しかできなかつた。

「しよふたああつ——、あたまつ……はひゃあうつ——せなかからあたまが、ヘンになつちやううつ……！」

ペニスで突かれる度に、背筋から脳までが、強く官能で痺れるらしい。言葉が蕩けて、脱力した肉体でペニス突きを受ける響は、無意識に快感を告げていた。

腰打ちの下で硬化するペニスは、突き上げにも揺れないほど身を固くしている。昇太が腰を打つ度に快感が走り、少量ずつの射液を地面に放っていた。



この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

仙獄学園戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義一丸が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学園戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

待たせたら

毎月中旬
発売!!

18歳未満の方は
購入できません

18

漫画：老眼
原作：斐之嘉和
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価 / 690円(税込)




全国書店で
**好評
発売中**

**真夏のキャンプ場で勃発する
天使vs魔族vs人間の
三つどもえバトル!**

思春期なアダムち
アウトサイド・ドリーム

【小説・さかき傘 / 挿絵・天海雪凸】




全国書店で
**好評
発売中**

**俺のフラグは
よりどりみりデレ**

【小説・栗栖ティナ / 挿絵・火曜】




全国書店で
**好評
発売中**

**平凡な少年が女体化!
鬼に狙われた
従姉妹を護れ!!**

**目覚めると従姉妹を護る美少女剣士に
なっていた**

【小説・狩野景 / 挿絵・天鬼とつり】



**最強のヒロインの座を狙い、
恋する乙女たちがH&バトル!**

既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

- 仙股学園戦姫 / ノブナガ! ①～④
- ヒルグリムメイド ①～③
- 無敵の姫騎士がDMに目覚めたようす

- 思春期なアダム ①～④
- 仮面娘らい萌 [カースイーター] ①～②
- 不死の吸血鬼がVSのご主人様を募集しているようす

- 借金お嬢クリス ①～③
- 魔海少女ルルイ・エルル ①～②
- オトミコ 僕は男の返女嬢



目覚めると従姉妹を護る
美少女剣士になっていた

退魔師の分家筋に生まれた一条遼は、ある夜目覚めると身体が女になっていた!! さらに時を同じくして従妹の結女が、鬼への生け贄「鬼慰姫」として狙われ始める。遼は結女を守る「鬼斬姫」の役割を果たすため、身体が女体化したらしく!? 鬼斬姫となって退魔の力を得た遼は、果たして鬼たちの手から片思い中の従妹を守れるのか!?

小説●狩野景
挿絵●天鬼とうり



全国書店で
好評
発売中

俺のフラグはよりどりみみデレ

ちょっとしたドジで聖エスタド学園へと転入することになった涼邑遼人。新たな生活に期待する彼だが、そこはお嬢さまツンデレ、クーデレなどの「属性」を持つ女子たちが通う女子校だった! 一癖も二癖もある女の子——「ヒロイン」たちの「主人公」となった遼人は、彼女たちの行うバトルに巻き込まれていき……!?

小説●栗栖ティナ
挿絵●火曜



全国書店で
好評
発売中



思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった! ごく普通の少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する!

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
好評
発売中

思春期なアダム2

背後をねらう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たなる刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱!“蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女&美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
好評
発売中



思春期なアダム3 一人泣きの子猫

蛇眼の力を持つ睦月をそれぞれの思惑で見守る、天使少女に悪魔少年&秘密組織の美少女たち。そこに睦月の命を狙う刺客——黒猫が再び襲いかかる…も、睦月は球技大会のバレーボール特訓や、蛇眼の力を抑えるためのエッチに大忙し!? 果たして彼の力を手に入れるのは誰だ!?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
好評
発売中

思春期なアダム4 聖域の崩壊

少女天使エンジュを核にして動き出した天使サイドの計略により、睦月たちの学園生活がついに大崩壊を迎えることに!?! FeTUSとの全面衝突の危機に際して、マキナそしてミスAが立ち上がる…。蛇眼の少年、睦月にはこの戦いを止める術は無いのか!?! 緊迫の新展開!!

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
好評
発売中



呪詛喰らい師

人の強い想いを糧とする半妖神——淫神。常磐城咲妃は、呪印術と「ウズメ流神伽の戯」を駆使し、時にはその豊満な身体を差し出して彼らを鎮めていた。そんな彼女が派遣された街では淫神事件が次々と起き始めて……!? 迫りくる魔の手から友を守るため、咲妃は淫らな戦いに身を投じる!!

小説●蒼井村正
挿絵●或斗せねか

蒼井村正
挿絵●或斗せねか



全国書店で
好評
発売中

呪詛喰らい師2

人に害なす淫神を鎮める学生退魔師・常磐城咲妃。彼女の通う槐宝学園に転校してきたのは——春先に彼女を襲撃してきた瑠那・イリュージアだった!! 咲妃になついた彼女は、咲妃たちといっしょに学園生活を送り始める。さらに「ゼムリヤ・イリュージア」と名乗る謎の女性が咲妃をペットにしようと狙ってきて……!?

小説●蒼井村正
挿絵●或十せねか

蒼井村正
挿絵●或十せねか



全国書店で
好評
発売中

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
来かねる場合がございます。お問い合わせはメールでもお手数ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

VALKYRIE



<http://www.comic- Valkyrie.com/>

cranberry



<http://www.cran-berry.com/>

mille-feuille
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!